

台風25号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成30年10月4日
福井県農林水産部

○強風対策

- ・強い台風であるため、特にハウスやカキ、ナシの強風対策を徹底する。
- ・ナシは、落果防止のため、棚の「あおり止め」を点検する。
- ・肥大の進んだカキでは、枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の設置、点検、補強を行う。

○大雨対策

- ・大麦作付予定圃場では、降雨前に額縁排水溝、補助暗渠を設置しておく。
- ・大豆、ソバ、野菜の圃場の周囲や排水溝を掘り直す。

1 共通事項

- ・人命第一の観点から、大雨・強風の中での圃場の見回りはしない。
- ・大雨や強風がおさまった後でも、増水した河川や水路等の危険な場所には近づかない。
- ・排水溝を掘り直す。特に、冠水や浸水しやすい圃場は、重点的に排水対策を実施する。

2 園芸施設等

- ・雨水がハウス内に侵入しないよう排水溝を点検する。
- ・ハウスの浮き上がりを防ぐため、パイプの基礎部の土を締め固める。特に、新設ハウスは被害を受けやすいのでアンカー増設等の対策を行う。
- ・ハウスバンドを締め直し、被覆材の破損部の補修や筋かいの補強を行う。
- ・周囲に防風ネットが設置してある場合は、点検、補強を行う。
- ・ハウス等の周囲はよく整理し、風に飛ばされやすいものは片づけておく
- ・風が強くなってきたら天窓、サイドビニール、入口を閉める。換気扇がある場合は、稼働させてハウス内を負圧にする。

<通過後>

- ・浸水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、速やかに排水する。
- ・風の心配が無くなったら、ハウスのサイドや天窓を開けて換気に努める。
- ・マルチ栽培をしている畝が冠水した場合は、中が水分過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩までめくり上げ、土を乾かす。
- ・土壌表面が固くしまった場合は、軽く中耕し、表土の通気をよくする。

3 大麦

- ・作付予定圃場では、降雨前に額縁排水溝、補助暗渠を設置しておく。

<通過後>

- ・降雨直後の土壤水分が多い状態で、耕起や播種を行わない。

4 大豆・ソバ

- ・排水溝や落水口を確認し、手直しを行う。
- ・大豆圃場では、枕地の培土が排水を妨げないように、畝を切り通しておく。

<通過後>

- ・圃場の停滞水を早急に排水する。

5 野菜(露地)

- ・キャベツ、ブロッコリーは、浸水すると根腐れなどを起こすので、排水溝を手直しする。浸水した場合は、24時間以内の排水を徹底する。
- ・ネギは、収穫直前のもののみ土寄せ等を行い、株のゆれを防ぐ。

<通過後>

- ・茎や葉が傷ついた場合、細菌病が発生し易くなるので被害株や被害葉を除去し、防除を徹底する。併せて、茎葉に付着した泥等を洗い流す。
- ・草勢を回復するため、液肥の葉面散布や追肥を行う。
- ・土壤表面が固まった場合は、軽く中耕して土壤中に酸素を供給し、根張りの回復を図る。
- ・根元が露出している場合は、軽く土寄せを行う。

6 果樹

- ・ナシ等の棚栽培では、風による棚面の動揺を防ぐため、棚の「あおり止め」の点検を行うとともに、枝を棚に誘引・結束しておく。
- ・肥大の進んだカキでは、枝の揺れによる果実の傷や枝折れを防ぐため、支柱等の設置、点検、補強を行う。

<通過後>

- ・倒木した場合は速やかに立て直し、支柱等にくくりつける。枝が裂けた場合は傷口を合わせ結束する。折れた場合は切り戻す。いずれの場合も癒合剤を塗布する。
- ・傷果等が発生した場合は摘果を徹底する。

7 花き

- ・排水溝や落水口を確認し、手直しを行う。

<通過後>

- ・圃場の停滞水を早急に排水する。
- ・茎や葉が傷つくと、病害が発生するので、病害防除を徹底する。

8 畜産

- ・施設の損傷、倒壊等を避けるため、必要に応じて補修を行う。
- ・施設や保管飼料への雨水の侵入を防ぐ。
- ・放牧地においては、牧柵等の破損、土砂崩れ等の発生する危険がある場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

<通過後>

- ・畜舎等が浸水した場合は、すぐに排水し、疾病予防のため洗浄・消毒し、乾燥に努める。